

奈良・町家の芸術祭

はならあと2023

う だ まつやま かしはら いまい さくらい いいばら はしちぢり ぶらちやろ まつやま とのり川
宇陀松山 檜原今井 桜井戒重 本町通 吉野町三茶屋 殿川
地球に優しい エコロジカルな 芸術祭



4 はじめに
開催概要

はならあとこゝろ うだまっどま

6 宇陀松山 エリア

展示会が始まる結構前に書いたもの
展示会が終わって結構経ってから書いたもの
キュレーター 長谷川 新

SEASON 2からスピノフ、続々と。
宇陀キラ倶楽部 田川 陽子

17 地域連携企画

18 公式ポスターについて

22 はならあとさてらいと
檀原・今井 エリア

27 はならあとさてらいと
桜井戒重・本町通 エリア

32 はならあとあらうんど
吉野町三茶屋・殿川 エリア

37 空き町家活用事例

38 はならあと meeting

来場者のことば

39 はならあと掲載メディア

40 サステナブルな取り組み

41 関係者一覧

協賛、後援、協力

42 奥付



A 笑顔で棍棒を構える来場者。宇陀松山エリアの地域連携企画「棍棒のふるさと展2」では、宇陀市発祥の新スポーツ「棍棒飛ばし」で使用される棍棒が展示された。B「松山長楽堂と箭上文化財修復のお仕事展」。宇陀松山エリアの会場のひとつ、石景庵の2階で地域連携企画として開催され、宇陀松山地区を拠点に活動する文化財修復家の実績紹介や器具の展示、同地区のデザインユニット松山長楽堂のデザイン画やイラストが展示された。C はならあと meetingのサステナブル講座で受講者にプレゼントされたミニカボチャ。イベントの詳細は — P38。D 秋田県に届いたはならあと2023「公式ポスター」(秋田市文化創造館)。大宇陀小学校の3〜6年生たちひとりひとりがデザインした「公式ポスター(全121点)」を全国に掲示した。詳しくは — P18。E 吉野町三茶屋エリア会場「jiwajiwa」に設置された殿川エリア会場への案内看板。エリアの詳細は — P32。看板下部は、はならあと事務局が継続利用しているインフォメーションボード。会場構成に使用する資材を廃棄せず、修繕しながら継続使用している。サステナブルな取り組みの詳細は — P40。

F 宇陀松山エリアの喜楽座の斜向かいにある尚文堂では、会期に合わせてマルシェが開かれた。「棍棒の声を聴こうの会」では、棍棒がもつ音の響きに耳を傾けた。G ダリアの花束を持つ宇陀松山住民(「ササオカのおっちゃん」の愛称で知られる、肉のササオカ店主佐々岡さん)。H 薬草足湯体験のようす。吉野町三茶屋エリアでは「jiwajiwaな、文化祭」が同時開催され、薬草や自然食などのマルシェ、庭づくり、刺繍、DIYのワークショップなども催された。詳細は — P35。I 桜井戒重エリアの掃除を手伝う、奈良女子大学のインターン生。奈良女子大学で建築を学ぶ9名の学生が、戒重エリアの会場の掃除や設営の準備など、半年に渡って活動に参加した。エリアの詳細は — P27。J ダリアの花。奈良県はダリアの球根生産日本一、宇陀市も有数の生産地である。宇陀松山の町並みをダリアの華で彩る「宇陀松山華小路」の終了後には住民達がダリアの花々を持ち帰り、軒先や商店の店先にダリアを飾る風景が見られた。K 長年にわたり今井町の地域発展に貢献されている「今井町町並み保存会」の若林稔さん。



宇陀松山エリア展示会場、報恩寺(「SEASON 2」阿児つばさ作品展、木下伊織「氣枯れゆく大地、浄化への旅」開催) 境内裏

「奈良・町家の芸術祭 はならあと」(以下、はならあと)は、県内の歴史的な町並みや町家で現代芸術の展覧会を開催する地域型アートプロジェクトです。2011年からスタートし、今年で13回目の開催を迎えました。

これまで12年間の開催を通して、はならあとの会場となった空き町家のうち、45件が店舗や住居として利活用されました。また、地域に新しいまちづくりの団体が発足したり、既存の団体に若手メンバーが加入するなど、様々な効果が生まれています。

昨年までの3年間は「地球に優しいエコジカルな芸術祭」として環境問題に取り組みました。今年も引き続き、環境に配慮した運営を心がけました。

植物の種を漉き込んだ土に還る紙を入場チケットに使用したり、スタッフの日々の生活の中で取り組んでいるコンポスト(生ゴミを土に混ぜて堆肥化する活動)でできた土で、開催エリアのインフォメーションに寄せ植えを飾るなど、様々な角度から環境について考える取り組みを継続しています。

メインエリアの宇陀松山では、インディペンデントキュレーター・長谷川新氏を迎え、地域住民とアーティストが一体となって作りあげる上質な展覧会を開催することができました。

新しい試みとして参加アーティストの1人である山本悠氏が先生となり、宇陀市立大宇陀小学校の子どもたちが描いたポスターの原画を公式ポスター

として採用しました。北は北海道から南は沖縄まで、全国に121枚を掲示していただきました。新しいチャレンジと地道に継続してきた取り組みがうまく合わさって、はならあとに新たな魅力が生まれたように感じています。

今年メインエリアの宇陀松山に加え、全エリア最多の12回目の開催となる榎原・今井エリアと、桜井エリアからは2013年以降の開催となる本町通と、2回目の開催となる戒重が参加しました。さらに、吉野町三茶屋・殿川が初めての開催となり、総来場者数は9月に実施したイベントにも合わせ、およそ14,000人になりました。ご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。



宇陀松山エリア展覧会「SEASON 2」森岡医院会場のユアサエボン《抽象画B》展示風景。窓辺には近隣の花屋「尚文堂」から贈られた花束。

「はならあと」は、県内の歴史的な町並みや町家で現代芸術の展覧会を開催する地域型アートプロジェクトです。2011年からスタートし、今年で13年目を迎えました。以下の目標を掲げ、奈良県の豊かな文化や暮らしを過去から未来に繋いでいます。

- ◆ 町並みの保存や町家の利活用促進
- ◆ 現代芸術を通じた新たな地域の価値の創出
- ◆ 地元まちづくり団体主体の運営による地域力の向上
- ◆ 住民の町に対する誇りや愛着の醸成

など

森岡医院

2022年に空き家となり、はならあと2023の展示会場として活用が始まる。道路に面した部分は大正期に建てられたと推測され、昭和11年に宇陀川の閑静な増築し料理旅館としてリニューアルしたことが年賀葉書から判明している。昭和後期には再び改修され、眼科・皮膚科の医院として開業。長い廊下といくつもの階段が織りなす迷路のような間取りや、細部意匠にこだわりを見せた手仕事の魅力だが、敷地内を水路が通るインパクトも相当なもの。

はならあと 2023 開催エリアと地元まちづくり団体

<p>こゑ 宇陀松山</p> <p>宇陀キラ倶楽部 + キュレーター 長谷川新</p> <p>10月20日(金) — 30日(月) 10時 - 17時 火 - 木曜日休</p> <p>ゲストキュレーターが実験的な現代美術の展覧会を開催する、本芸術祭のメインエリア。地域性を再考察することで現代日本の課題を読み解き、未来に向けて、新しい価値を提案・発信。</p>	<p>さてらいと 榎原・今井</p> <p>今井町町並み保存会</p> <p>10月20日(金) — 29日(日) 10時 - 16時 会期中無休</p>	<p>さてらいと 桜井戒重・本町通</p> <p>かいじゅう未来計画 ~アート・ひと・まち in 大和桜井~ 桜井市本町通・周辺まちづくり協議会</p> <p>10月20日(金) — 30日(月) 11時 - 17時 火 - 木曜日休み</p>	<p>地域とゆかりのあるアーティストによる展覧会や、地元学校と連携したプロジェクトなど、文化芸術をきっかけとした地域活性と芸術普及を目指す。</p>
<p>あらうんど 吉野町三茶屋・殿川</p> <p>三茶屋・殿川はならあと 実行委員会</p> <p>10月21日(土) — 22日(日) 【三茶屋】10時 - 17時 【殿川】会場により異なる</p>	<p>新規エリアが小規模にイベントを開催。まちづくりのステップアップを目指す。</p>		

はならあとは、3つの部門「こゑ」「さてらいと」「あらうんど」と地域連携企画から構成されています



はならあと2023 Uda-matsuyama AREA

- 展覧会タイトル **SEASON 2**
- アーティスト 阿児つばさ、朝海陽子、クローン文化財(ミレー《種をまく人》)、丸木スマ、宮崎竜成、山本悠、ユアサエボシ
- キュレーター 長谷川新
- まちづくり団体 宇陀キラ倶楽部
- 会場 喜楽座、石景庵、千軒舎、報恩寺、松山会館、森岡医院
- 協力 株式会社KI、無人島プロダクション、原爆の囀 丸木美術館、東京藝術大学COI拠点
- 特別協力 THE ROOT BEER JOURNEY

喜楽座会場での朝海陽子《BUBBLE》展示風景。会期中はアムリタによる演劇作品も上演された。

喜楽座

明治後期に建てられたと推測されている建物で、年代を裏付ける資料が出てくれば、関西最古の芝居小屋。芝居小屋として整備され、のちに映画の上映を行うようになり「喜楽館」と名前も変更。躯体は芝居小屋の頃の面影と痕跡をとどめ、大向こう（2階正面）に映写室が設けられている。1962年4月から時間がそのまま止まったかのような映写室内部は、世界で唯一の空間で映画史に関わる人から熱い視線が注がれている。平場は天井が高く、はならあと2023をきっかけに設けたスクリーンを活かした様々な活用が期待される。

「前の方が良かった」とか「蛇足」だとか好き放題言われがちなドラマの「シーズン2」ですが、区切りのついた何かをもう一度始めることは、私たちの生活ではごく当たり前にあることです。ちょうどいいところで人生は終わってくれませんし、死んでもなお、終わりでない。何かや誰かの続きを引き受けた

現存する日本最古の薬草園のある宇陀松山は、自然と伝統の息遣いが残る土地です。めぐる季節にあわせて土を耕し、作物を育てる。身体の変化にあわせて薬を調合する。環境を大切にする姿勢を育む。ここは、「変わりながら生きていく」ことを前提とした場所なんだろうと思います。

展覧会「SEASON 2」によせて ①
展覧会が始まる結構前に書いたもの

キュレーター 長谷川新

SEASON 2 からスピノフ、続々と。

宇陀キラ倶楽部 田川陽子

今年の宇陀松山でのほん
らあととは、10月末に終わ
りました。終わった割には、
今でも大宇陀小の子どもた
ちのポスターがまちのあち
こちで視界に入るし、悠さ
んは相変わらず棍棒飛ばし
の審判をしたり薬草農園に
あらわれたりしているし、
池本さんはキュレーターの
長谷川さんたちとゴキゲン
なお出かけしているし、私
は息子のポスターを受け入
れてくださった金沢芸術村
まで家族旅行で押し掛け、
宮崎さんの元気そうな顔を
みて和んでいるし。

漫然と過ごしていたら、
きつと出会わなかった作品
や人に巡り合えるのが、は
ならあとの魅力です。今回
のはならあとでは、展覧会
が終わったあとも存在する
作品が殆どで、いずれは宇
陀松山に飾られていた丸木
スマさんや、クローン文化
財の本来の場所にも行って
見てみたい、と思う私が居
ります（運営中は、雑念に
まみれて作品に没入できな
かったな、という反省がそ
うさせるのか）。本番の8
日間、充実感も大きかった
わけですが、その日を迎え
るまでの大宇陀小学校のこ
どもたちのポスター1枚
1枚にまつわる物語や、展
覧会後の後日譚が続々と織

会期直前 THE ROOT BEER JOURNEY が宇陀を
訪れる。宇陀ゆかりの薬草ヤマトウキのルートビアが振る舞
われた。展覧会設営に向け人々が集う森岡医院にて。



7月。喜楽座での朝海陽子作品の投影テスト中の長谷川新と宇陀キラ倶楽部。
展覧会後も上映会等で継続使用できる新たなスクリーンを設置した。



5月。宇陀キラ倶楽部の皆さんと、はならあとサポーターさ
んたちとお掃除会を実施。今年は森岡医院が新会場として初
めではならあとに加わった。



り、変わることを余儀なくされな
がら、それでも何かを続け、残そ
うとする。そういう連続なんだと
思います。

一方で、大人と子供、先輩と後
輩、今日と明日——こうした「続
き」は、オリジナルとコピーみた
いな関係では決してない。それが
「何かの続きであること」と「そ
れ自体が固有の、かけがえのない
存在であること」は全然両立す
る。だから、「VERSION 2」
というよりも「SEASON 2」
と言ってみたいのです。

本展は、それぞれの「SEAS
ON 2」が交錯する「全員途中
参加型」の展覧会です。同時開催
されているさまざまなイベントと
ともに、宇陀を思いっきり楽しん
でもらえたら嬉しく思います。次
の季節に向けて。

宇陀で活動を続ける、阿騎野薬草農園を守る会。薬草農園は非公開。
山本悠は春から活動をともにし、薬草がもたらす恵みの豊かさを学ぶ。



10月。タリア畑で収穫した花々を運ぶ長谷川新。
華小路のリハールに臨むイケモトタツヤと諸熊仁志のもとへ向かう。





石景庵での宮崎竜成《カレンダーの作り方/使い方（内灘暦）》の展示風景。設営期間中、はならあととサポーターとともに現地での組み立て作業が行われた。ガラス窓のルーバーの取り外しなど、地域の芸術家や職人らの助言が空間に反映された。2階では「松山長樂堂と箭上文化財修復のお仕事展」が同時開催。



千軒舎での丸木スマ《簪》（原爆の図 丸木美術館蔵）の展示風景。このほか、原爆体験を元に描かれたとされる作品《ピカのとき》をはじめ、スマの絵画作品10点が展示された。

千軒舎

明治前期に建てられたと推定される町家で、葉屋（内藤修精堂）から歯科に変わり、2003年からは松山地区のまちづくりの拠点「松山地区まちづくりセンター」として整備された。大胆な改修例としての役割も担い、はならあとでは毎回会場として使用している。

石景庵

2004年に町並みギャラリーとして新築された建物で、1階は展示あるいは交流スペース、2階がギャラリースペースとして利用されている。中庭の奥に17世紀末に築造された石垣が残り、この場所の象徴的な存在になっている。

さいました。料理旅館から医院へと変わり、その両方の雰囲気を残す迷路のような建物はとても魅力的で、次の部屋へ展示を見に行くまでの道のりも、目を楽しませてくれる良い会場となりました。

ボランティアの人たちと片付け、8月のライトアップには蚤の市でちよこつとお披露目、10月の搬入作業（こんなに楽しい搬入作業は初めて）、日々グレードアップする報恩寺の様子、充実した一年を過ごせたのではないだろうか。報恩寺では、スピントップロジエクトが静かに企てられ

ておりますよ。

キュレーターの長谷川さん、長谷川さんが連れてきてくれた作家の皆さん、運営を支えてくださったサポーターの皆さん、はならあと事務局や奈良県まちづくり連携推進課の皆さん、いろいろな人を受け入れてくださった地域の皆さん、会場の利用にあたりいろいろ融通を聞かせてくださった宇陀松山まち協さま、美味しいお弁当をほぼ毎日届けてくれた can do*のおふたり、マルシェで華を添えてくれた久保本家・ゲストハウス奈の音さん、力強い応援をして

りなされているところが、『はならあと』2023の素晴らしさだと思います。

さらに、毎年路面にダリアを敷き詰めていた宇陀松山華小路を諸熊仁志さんとイケモトタツヤさんにお願いしたところ、これまでにないだリアの見せ方となり衝撃を受けました。とことん空間の美しさにこだわりの、ダリアひとつひとつをととても大事に扱ってください、お願いして良かったです。石景庵では、これからを担う若手が、力を発揮してくれました。

また、会期中には過去にはならあとと宇陀松山に関わって下さったキュレーターさん、アートディレクターさん、作家さん、サポーターさんが訪ねてくれました。こういう里帰りも泣けるほど嬉しくて、「はならあとがあるから、またここに来れるのよね。」

の言葉は、運営大変だからもうやめたいという気持ちをお霧散させるだけの力があるわけです。

2011年から数えて7度目の宇陀松山のはならあと。喜ばしいことに回を重ねるごとに展示会場を担った空き家が住まいやお店に変わっています。展示会場候補が減り、2017年からレギュラー会場となった喜楽座だけでは寂しいからと、新たな会場を開拓しなければと一念発起して、昨秋から空き家になっていた森岡医院のオーナーさんに2023年の春、思い切った声をかけるに至ったのが今回のメイン会場との出会いでした。

大きな家を相続して途方に暮れていたオーナーさんにも渡りに舟だったようで、片付け、展示、空き家ツアーに使わせていただく旨、二つ返事でご快諾くだ



クローン文化財のミレー《種をまく人》(山梨県立美術館寄託、株式会社KI 東京藝術大学COI拠点所蔵)は、ふすま越しに自然光が差し込む松山会館の和室内で展示された。同会館では宇陀ゆかりの葉草を紹介する「大和当帰展」と、宇陀発祥の棍棒飛ばしを紹介する「棍棒のふるさと展2」が同時開催された。



無量山報恩寺境内に常設となった阿尻つばさ《a? Fê G pop (ちきゅうのれきし)》、作品天井の開口部ごしの青空。本を読んだり寝転がったりして過ごすことができる。会期中、報恩寺は作品に関係する書物を集めた図書コーナー、写経や喫茶のためのスペース等を特別開設した。

報恩寺

報恩寺は宇陀松山城跡の真南、松山地区の外周部にある真宗寺院で、山号は無量山。木造の大きな本堂や隣接する庫裏は、はならあとに関連する数多の行事の会場や、参加作家の宿泊場所にもなった。山の中の滑り台に心を掴まれた人も多数。

松山会館

松山会館は明治36年の棟札がある、旧松山町役場の建物。棧瓦葺、漆喰塗、板張りの和風要素満載の外観でありながら、内部はキングポストトラスという洋小屋の構造で屋根を支えている。土木事務所や福祉会館など、用途が変遷して今に至り、現在は宇陀松山まちづくり協議会で管理をしながら活用を行っている。



10月7日、宇陀で活動続ける全日本棍棒協会が主催した全日本棍棒飛ばし選手権大会。山本悠は審判を務めた。写真提供=全日本棍棒協会



サポーター活動

はならあとを支えるボランティアとして、22名のサポーターが活動に参加しました。会期前には展示会のチラシ発送やプレイベントのスタッフ、展示会場となる空き町家の清掃、会場設営に参加しました。会期中は、会場での受付や作品見守り、来場者への作品解説などを行いました。また、長谷川新キュレーターと共に作品の制作や配置にも携わり、皆で展示会をつくりあげました。年齢層は10代から70代まで幅広く、近隣地域のみならず関東からの参加もありました。サポーター自身の芸術への理解、テーマである環境問題への関心を高める機会にもなりました。来場者からも、サポーターから作品の解説を聞いて理解が深まり楽しかった、という声が多くありました。はならあとにとって一番の応援者であるサポーターは、展示会を形作るためにも非常に重要な存在となっています。



作品外観と作者。「SEASON 2」の会期終了後も常設され、継続して人が集うために手入れを重ねている。

くださった大宇陀観光ガイドの皆さん、宇陀キラ倶楽部のメンバー、すべての方にこの場をお借りして感謝申し上げます。こうしてで

きたご縁を温め、宇陀松山に「帰ってくる」人たちを「おかえりなさい」と言ってお出迎えることが、これから先もずっとできますように。



10月。森岡医院前で搬出後の集合写真。



11月。棍棒飛ばしチーム大宇陀神農仏sの山林整備。



11月。阿騎野茶草農園を守る会の冬支度。苅菜の植え替え。



12月。ゆたかな宇陀の黒豆収穫日。



12月。かきろひの丘万葉公園で50年以上続く、かきろひを観る会。

展覧会「SEASON 2」によせて ③
展覧会が終わって結構経ってから書いたもの

キュレーター 長谷川新

大宇陀小学校の図工の授業の帰りに、これを書いています。公式ポスターを描いてくれた子供たちとは3ヶ月ぶりの再会で、みんな少しずつ大きくなっていて、ポスターの依頼をした半年前とも違って、僕はかなりびっくりしました。そうか、そうだな、一日日変わっていつてるんだな、と、それらしいことを書いていたはずなのに、何も分かってなかったなと気づきました。

展覧会「SEASON 2」は、さっぱりと終わりがたくて、でも、展示期間が終わっても、何も終わ

りじゃないぞと思いがちやっています。「SEASON 2」以外にも宇陀にはたくさんさんの展示やイベントがあつて、あまりにもたくさんあるので多分逆に特別なことじゃないんだらうなと思います。来年の華小路はどんなふうになるか、本屋さんにどんな本が並びか、喜楽座で何が上映されるか、棍棒大会にダークホースが現れるのか、東屋は、農園は、あの人は…。何もかも、今から楽しみです。

最後に、ちょうど読んでいた本から。そうだなあ、と思つて。また来ます、宇陀。

デモがたった五人である日が続いても、挫折だの絶望だのというのは面映いおもはせ。そんなものは「闘争」の中に見出さなくても明るくたのしい毎日のくらしの中に、いやというほど見つけることができ、いまさらことあげするほどのことでもないのである。

小沢遼子『よその連合太平洋』筑摩書房、1973年、p.272



キュレーターとの再会を果たす公式ポスターのデザイナーたち。



2024年2月。イケモトタツヤと長谷川による特別授業。

地域連携企画

SEASON 2 と同時開催。宇陀松山エリアの地域連携企画

キュレーターによるメイン企画展「SEASON 2」の会期中に、地域と縁のあるアーティストが地域連携展として展示やパフォーマンスを行いました。地元に関わる人々ならではの同時開催イベントも多数催され、来訪者を楽しませました。



a 宇陀松山華小路「日の名残り〜O氏の家族のものごたり〜」/10月21日(土)、22日(日)/制作=イケモトタツヤ×諸熊仁志/音楽協力=内藤翔/主催=宇陀キラ倶楽部/写真=諸熊仁志 **b** 木下伊織写真展「氣枯れゆく大地、浄化への旅」/10月27日(金)〜10月30日(月)10時〜17時/会場=報恩寺/主催=報恩寺 **c** 「松山長榮堂と箭上文化財修復のお仕事展」/10月20日(金)〜10月30日(月)10時〜17時/会場=石景庵/主催=宇陀キラ倶楽部/火一木曜日休み **d** アムリタ「ふたたび」/10月21日(土)12時30分〜13時、17時10分〜17時40分/10月22日(日)12時30分〜13時/10月28日(土)12時30分〜

13時、17時10分〜17時40分/10月29日(日)12時30分〜13時/会場=喜楽座/テキスト・演出=荻原永璃/出演=藤原未歩、諸江翔太郎/主催=アムリタ/本公演入場料=1,000円、高校生以下無料/写真=白樺汐 **e** 阿児つばさと報恩寺によるコラボレーション御朱印/会期中頒布 **f** 「大和当帰展」/「棍棒のふるさと展2」/10月20日(金)〜10月30日(月)10時〜17時/火一木曜日休み/会場=松山会館/主催=宇陀松山まちづくり協議会 **g** 宇陀への移住を検討中の方向け空き家ツアー/10月29日(日)14時〜16時/参加者=7名/主催=宇陀キラ倶楽部

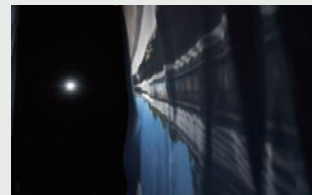


松山長榮堂デザインのダリア染め「うだ」バッグ。日本酒の瓶や植物のポット苗、小さめの棍棒(?)がすっぽり入るサイズ。レタリングは山本悠が担当。棍棒、大山椒魚、ヤマトトウキ、黒豆、松山地区の街並みなど、宇陀にちなむ様々な風物がかたどられている。



朝海陽子

1974年、東京生まれ。ロードアイランドスクール・オブ・デザイン卒業。「見る/見られる」という行為の関係性や人や物の痕跡を物語のように浮かび上がらせる写真作品を制作。研究者の撮影を通して「自然」という視座を得たことから、3.11以降は人と自然の距離に着目し、「風」「潮」「川」などの自然現象を対象に風景に潜在する時間を顕在化させるランドスケープシリーズを発表している。各シリーズでは、被写体と撮影者、撮影対象との写真を見ている鑑賞者との間合いや距離感が常に意識されており、作品のタイトルにも反映されている。また、最近ではコロナ5類移行に伴い、日常が徐々に戻ってきている中で、時間の経過や変化を喚起させる状況を調査し、「慣れ」と「移動の身体性」について考えている。主な展覧会に「Touch」(無人島プロジェクト)、2022「1」(生成する風景-小山市立車屋美術館、2016)、「第6回恵比寿映像祭」(丸木スマ美術館)、2014、「六本木クロッシング2013展」(アウトラップ・ダウト)、「来たるべき風景のために」(森美術館、2013)などがある。



《BUBBLE》が展示された喜楽座のエントランスに制作されたもうひとつの朝海陽子作品、カメラオブスクラ。差し込んだ光が松山地区の街並みを映し出す。

山梨県立美術館の解説文を引用し「ジャック・フランソワ・ミレー 《種をまく人》1880年」

パリを離れてバルビゾン村に移り住んだミレーがはじめて手がけた大作。「種をまく人」という画題は、パリにいた頃からミレーの興味をひいていた。画面を占めているのは、左手で種の入った袋を握り、坂を下りながら右手で種をまく農民の堂々とした姿である。しかしミレーの絵は、当時の人たちが見慣れていた農民の姿とは、あまりにも違っていた。そのため、この作品がパリのサロンに出品されたとき、農民の力強い姿を称賛する人もいたが、保守的な人々はこの絵を非難し、種をまく人を体制に異議申し立てをしている姿とみなした。

丸木スマ

1875年、広島生まれ。60代の終わりまで仕事や農作業を続けてきたスマは、三男の開業にもない家計が安定したことで、働き手として1948年から、絵画制作に励むようになり、1950年代後半から、スマが本格的に絵を描き始めるのは70歳を過ぎてからです。「わしやの長生きして絵を描きます」と、描くことが生きがいになっている旨の発言

山本悠

1988年、埼玉県与野市生まれ。イラストレーター。コロナ禍のニューノーマルで、ミニコナガデンの仲間たちと活動していました。家から鉄道の高架下を歩いて、10分くらいのところ。その場所です。突っ立った物は、誰でも持ち帰ることができる菜園です。探れずきた野菜は路上の冷蔵庫に置きに行きます。行かない野菜は、受け取るだけでもできます。ですから貧困だけでなく、美味い野菜がいつも私たちに隣人でした。私は絵日記をつけていました。それを読んだセバスチャン

ユアサエボン

ユアサエボン(1983年生まれ)が観ている(一流画家・ユアサエボン)の略歴を書きます。ユアサエボン。1924年生まれ。1987年没。千葉県出身。本名は湯浅浩幸。1940年頃、東京し看板屋の仕事に就くかわら、前衛画家・福沢一郎のもとでカラー・ジュ作品を制作するようになる。1943年には、先輩画家、山下菊二が描いていた「日本の敵米国の崩壊」の制作助手を務める。戦後をあらゆる手段でつかまようとして、また、紙芝居の着色を担当していた。1956〜58年にかけてニューロビーに滞在、レストランで皿洗いの仕事をしながら作品制作をする。帰国後は、アメリカで購入してきた雑誌記事をもとに制作を行いました。1964年にシエル美術館で

宮崎竜成

1996年、京都府生まれ、石川県在住。あらゆる物事に固有にあるということ、それが有る連続の中の一つであるということと同時に含むことを「リズム」として捉え、それを手がかりに固有のものが固有のままあるままとりを持つ運動の形をあらゆる手段でつかまようとして、また、紙芝居の着色を担当していた。1956〜58年にかけてニューロビーに滞在、レストランで皿洗いの仕事をしながら作品制作をする。帰国後は、アメリカで購入してきた雑誌記事をもとに制作を行いました。1964年にシエル美術館で

阿児つばさ

1991年生まれ。作品と何かを残したい欲が強く森のつくり方を学んでいる。主な展覧会に、「scenariio」(FINCH ARTS、京都、2023)、「水橋」(札幌500美術館、北海道、2018)、奈良県立大学現代アート展「船/橋わたす」(奈良県立大学、奈良、2012)、「花路里と花路里」(PEGASUS / ことやこ)、「3331 ARTS / Chiyoda、東京、2010」など。



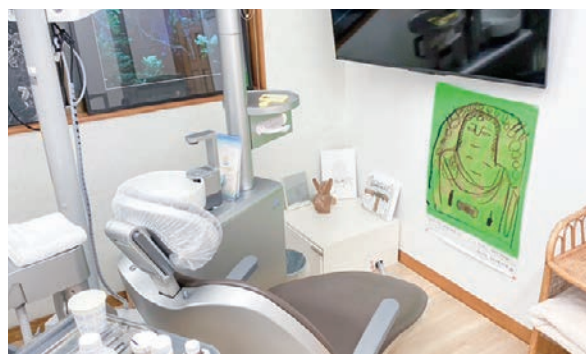
森岡医院では、ユアサエボンの絵画2点が展示されたほか、ユアサと朝海陽子の過去作品を鑑賞することができるスペースが用意された。左=ユアサエボン《抽象画A》、右=朝海陽子《庭2》



本頁は AMeeT 初出「121枚の公式ポスター 大宇陀小学校図工室と『奈良・町家の芸術祭はならぁと2023』」(文=山本悠/授業風景写真=奥祐司)を元に加筆・再構成されました



BnA Alter Museum / 京都府京都市
アート作品に泊まることのできる京都のホテル。このポスターを見て、大宇陀まで来てくれた人は、絵の真ん中に塗られた紫色の正体を知って、とても喜んでくれました。



渡辺歯科医院 / 東京都台東区
歯が痛くなった人の行くところ。治療を大仏が見守ってくれます。ユウチャン先生も虫歯の手術を受けました。渡辺先生は、友達(患者)をおおぜい乗せて、宇陀まで車で遊びに来てくれました。



あおみどりの木 / 沖縄県那覇市
沖縄のギャラリー。築70年のあおみどりの色の建物で、昔はおじさんが薬局を営んでいたそうです。宇陀は薬草のまちなので、ふしぎな縁。沖縄に旅する時はかならず行く。



KIITO / 兵庫県神戸市
デザインやアートの仕事場、イベントが集まるクリエイティブセンター。色と形に着目してびったりの場所を見つけ出してくれました。ポスターを貼ってくれた人の心の動きが伝わってきます。

—— 広報戦略、私が決めます。 ——



つつじ荘 / 香川県直島町
奥に見えるのは瀬戸内海。宇陀とは景色がまったく違いますね。直島でくらす人は、大山椒魚を見たことがないかもしれませんね。ポスターを貼ってくれたつつじ荘の田中さんは、みんなに会うために、大宇陀小学校まで来てくれましたね。

—— 2023年9月4日

大宇陀小学校のみなさん、こんにちは。ユウチャン先生です。いつ頃これが読まれているでしょうか。(中略)ことしの7月、図工室でいっしょにポスターを作っていたあの頃よりも、すこし歳をとったあなたに向けて、書いているつもりです。

「Art Meets Technology」をコンセプトとするウェブメディア「AMeeT」が、ユウチャン先生の書いたお手紙を掲載してくれました。いっしょにポスター制作に取り組んだ大宇陀小学校のみなさんに読んでもらいたい内容です。

大宇陀小学校図工室で描かれた121枚の公式ポスター

「はならぁと2023」では、宇陀市立大宇陀小学校の3〜6年生児童たちが広報戦略を企画し、自らの手で描き上げた「公式ポスター(全121点)」による広報活動を実施しました。このページでは、その一部を紹介します。



コープ真美ヶ丘／奈良県香芝市

毎日の暮らしに欠かせないお買い物ができるお店、ならコープ。県内13カ所でポスターを掲出してくれました。



東海東京証券／東京都中央区

銘菓きみごろもで知られる、宇陀松山の老舗、松月堂の店がまをを描いたポスター。窓ガラスの向こうには、宇陀から遠くはなれた東京の夜景が広がっています。



久保本家酒造 はなれ／奈良県宇陀市

久保本家酒造の発酵メニューが楽しめるカフェ。薬草発酵博覧会など、宇陀の魅力を発信するイベントで活躍しています。喜楽座の天井画が描かれた、宇陀松山上級者向けの1枚。



奈良一奈良漬いせ弥／奈良県宇陀市

奈良漬の名店、いせ弥。勢いよく描かれた芸術祭のタイトルと抽象表現を組み合わせた、シンプルで力強いポスター。絵の具の軌跡は、阿紀神社でつづく「蛍能」で舞う、蛍の光のよう。



東京ステーションギャラリー／東京都千代田区

日本の交通の玄関口、東京駅の中にある美術館。宇陀松山の石畳を前に、人物の後ろ姿が描かれた、臨場感あふれる場面絵。レンガ造りの駅舎の色彩や、となりのポスターの構図など、周囲との響きあいも美しい。



ひむか村の宝箱／宮崎県宮崎市

宮崎市の丘の上に広がる自然豊かな平和台公園で、宮崎の森の素晴らしいことに触れることができるカフェと雑貨のお店。ヤマトトウキ、ダリア、鹿を描いた宇陀ならではの1枚。



藤間家住宅／奈良県奈良市

町のみんながずっと大切にしてきた、登録有形文化財。展覧会などにも活用されています。壁を傷つけないように、ポスターが空間に馴染むように、掛物に仕立てて掲出してくれました。



奈良公園バスターミナル／奈良県奈良市

奈良へ観光に訪れた人々をおもてなしする玄関口。桜が満開の吉野の山々、稜線のきみどり色は春の光のうらわしさを思い起こさせます。春にも奈良へ帰っておいでと誘っているみたい。



秋田市文化創造館／秋田県秋田市

壁一面に貼られた、色とりどりのポスター。新しい世界への入り口がいっぱいの秋田市文化創造館。この場所で「はならあと」に行くきっかけをつかんだ人もいます。



金沢市民芸術村／石川県金沢市

24時間年中無休。金沢で芸術を生み出す人たちが集まる、自由な空間。大山椒魚が手に持っているのはヤマトトウキ。きみごろもの花も咲いています。不思議な魅力にみちた魔法のポスター。



jiwajiwaな、おうち／奈良県吉野町

植物のちからを生かして素敵なアイテムをつくるjiwajiwa。仲間たちが集まり文化祭を開くこともあるおうちです。土壁の背景が一輪のダリアをぐっと引き立てます。

どんな人に「はならあと」を訪れてほしいのか、具体的にイメージして、相手意識をもつこと。奈良や宇陀の魅力伝えること。芸術祭への期待を伝えること。情報の発信者としての責任をもち、自分の信じる内容だけを表現すること。授業では、大人が仕事に取り組む時と同じように、これら4つの与件をもとにアイデアを組み立て、社会で実際に使われる広報ツールを制作しました。



坂野真子 | 旧北町生活広場

モーリシャス島に生息していた鳥のドーダー。人間の身勝手さによって短期間で絶滅した。そんなドーダーが元気に復活したらいいなと楽しい空間を表現する。

今井町の展示



樋田享子 | 旧米谷家

榎原市今井町に暮らし工房を構え、作品制作と共に画塾を開いている。その時その場所でしか生み出せない展示空間を創ることを大切に、様々な画材で具象画や抽象画を描く。

はならあと2023

Imai AREA
Kashihara / Imai



KASHIHARA / IMAI

榎原・今井エリア

「日本の重伝建の町家群が新たな一歩を！」

1993年に今井町は文化庁により「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、今年30周年にあたります。中世よりSDGsを町全体で実践しつつ今日に至った古民家群こそは、芸術とのコラボレーションにより一層その奥深さを際立たせます。

日時 2023年10月20日(金)ー29日(日)

会期中無休、10時ー16時

主催 今井町並み保存会

会場 阿伽陀屋若林亭、今井景観支援センター、今井まちや館、旧北町生活広場、旧米谷家、中町筋生活広場

出展作家

あきらも★ろっく、樋田享子、櫻井恵子、坂野真子、芝谷桂、Crescent Moon Installation Unit (ユニット)、島岡亮次、藤田千代、仲川勝三、六車紀子
サステナブル講座講師
伊藤典明、井上智路、後岡道雄、柴田道雄、城者定史、中村斗茂栄、三橋玄、山中淳史、若林稔



六車紀子 | 今井景観支援センター

「四季折々の草花に触れ心ゆたかな生活を」本来、生花は日本の伝統的な家屋にとてもマツする。たった一輪の花を身近に飾ることにより、その美しさや香りが楽しめる。



芝谷柱 | 今井まちや館

世界には様々な物が存在するけれど、人には見えない物がたくさんある。見えない物を表現したい。そして自身でも見てみたい。そんな思いで作品を作り続けます。



Crescent Moon Installation Unit (シュウ、島岡亮次) | 今井まちや館



「物（質）そのものが語り始める」伝統建築にも、現代アートにもあり、その特質を生かした、環境空間展示=インスタレーションを行う。



あきらも★ろっく。 | 阿伽陀屋若林亭

生命が誕生する「エネルギーの瞬間」を様々な表現方法で作品として展示。今回のテーマは「示」。



櫻井恵子 | 今井まちや館

「私的宇宙」ミニマルズの美学とは？現代アートが雄弁に語られる中、饒舌なアートへの挑戦なのではないだろうか。



藤田千代 | 中町筋生活広場

「日々の暮らしに絵の喜びを…」線で表現する向日葵や今井町、奈良、海外風景スケッチなどを展示。



仲川勝三 | 今井まちや館

「最高のアナログで至福の一時を」稼働できる蓄音機の展示及びSPレコード鑑賞、古い瓶や大皿オブジェの陳列、絵画「アイススケート」の展示。土間でのギター弾き語り演奏会も開催。

桜井 Sakurai

本展覧会は、戒重区から桜井駅を一直線に繋ぐ「竹内街道・横大路（旧伊勢街道）」に位置する元寿司屋・旧医院・駅ロタリーを舞台に展開します。アートを通して、ふだんあまり意識することのない「経験すること」に目を向けることで、何げない日常や未来について新たな側面が見えてくるかも知れません。



本町通 Honmachidori 戒重 Kaiju



今井町MAP

県文化財・重要文化財指定の町家
 はならあとさてらいと展示場所

今井町は町域の主要部が国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されており、堅固な城塞都市として東西600m、南北310mを囲む環濠、狭く見通しのきかないようにつくられた道が特徴です。

今井町サステナブル講座 会場：阿伽陀屋若林亭

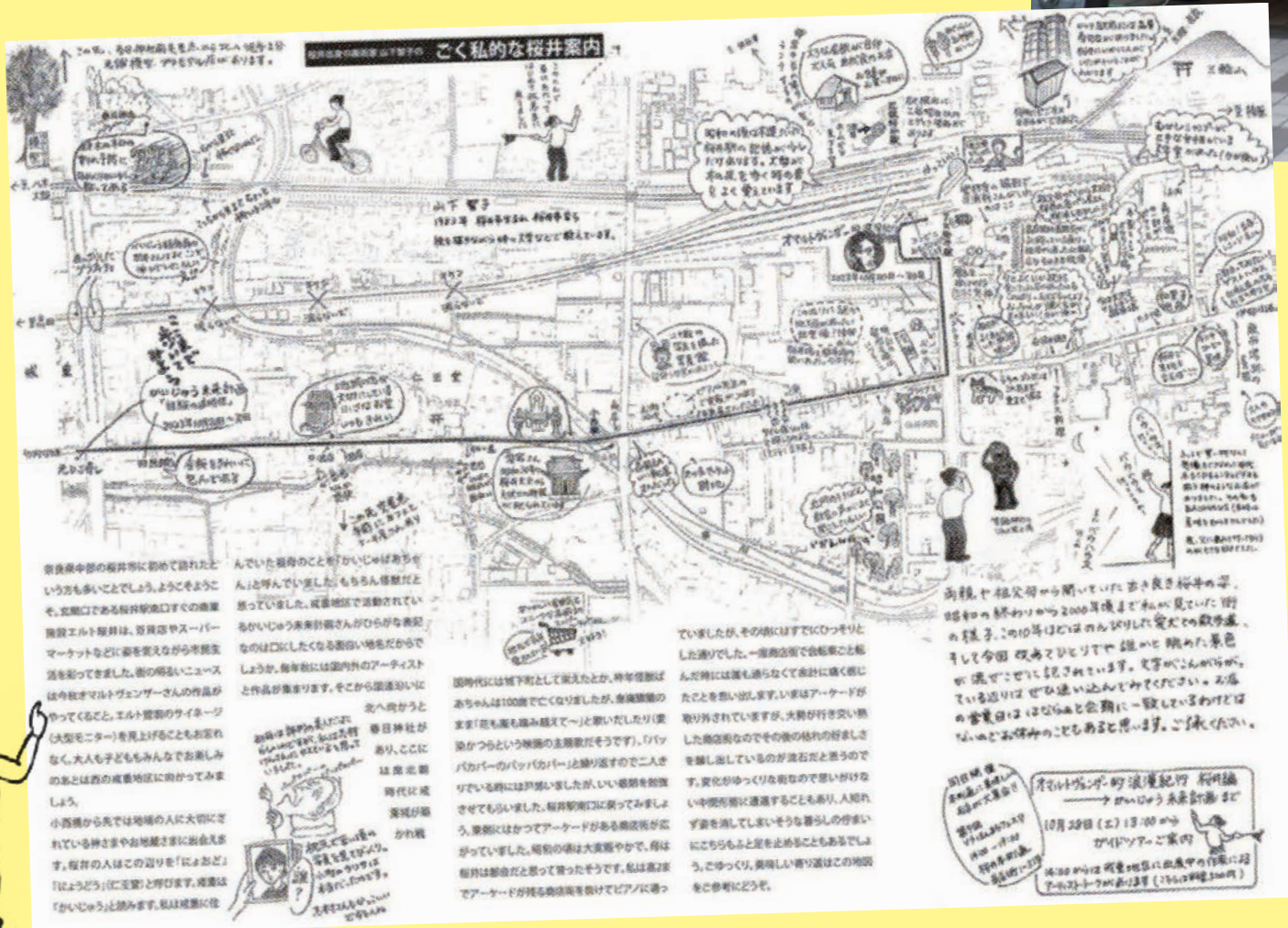
- 10.20 金 「漆はコロナに強い」 柴田道雄
- 10.21 土 「古民家から学ぶ日本の大工」 井上智路
「下北山村は第3のふるさと」 後岡道雄
- 10.22 日 「町づくりは人づくり」 若林稔
「古民家は予防医学の実践場」 若林稔
- 10.23 月 「私の断捨離は技術継承（造園一剪定、木工）」 若林稔
- 10.24 火 「吉野材は豊富な国産資源」 伊藤典明
「古民家と左官」 中村斗茂栄
- 10.25 水 「海の汚染と向き合って20数年」 城者定史
- 10.26 木 「私の断捨離は技術継承（造園一剪定）」 若林稔
「竹と共生」 三橋玄
- 10.27 金 「視点を変えれば世の中も変わる」 山中淳史
- 10.29 日 「古民家は予防医学の実践場」 若林稔
「町づくりは人づくり」 若林稔





山下智子
「ごく私的な桜井案内ツアー」

桜井駅から戒重エリアまで、アーティスト・山下智子さんが直接解説しながら案内しました。



オマルトヴェンザー的
浪漫紀行桜井編

展示概要

会場：JR・近鉄桜井駅南口ロータリー・ディスプレイ
入場：無料
出版作家：オマルトヴェンザー、山下智子
企画：村田典子（一般社団法人はなまる）



The transparency of experience

かいじゅう
Kaiju 戒重

経験の透明性

展示概要	日時
主催	2023年10月20日(金)〜30日(月) 火〜木曜日休み 11時〜17時
会場	かいじゅう未来計画アート・ひと・まち in 大和桜井、 桜井市本町通・周辺まちづくり協議会 旧医院、元ひご寿し
出展作家	ウィル・ホール、岡本奈香子、 栗原寿行、サンディープ・ビスワス、 シヴァニ・アガルヴァル、田中誠人
連携展示	奈良女子大学インターン生、 芸術文化振興基金、 大阪コミュニティ財団
助成	自由料金制
入場	



「器 Dish」 栗原寿行 @元ひご寿し



「ウイーピング・トラップ Weaving traps」 シヴァニ・アガルヴァル @元ひご寿し



「Inner Landscape」 岡本奈香子 @旧医院



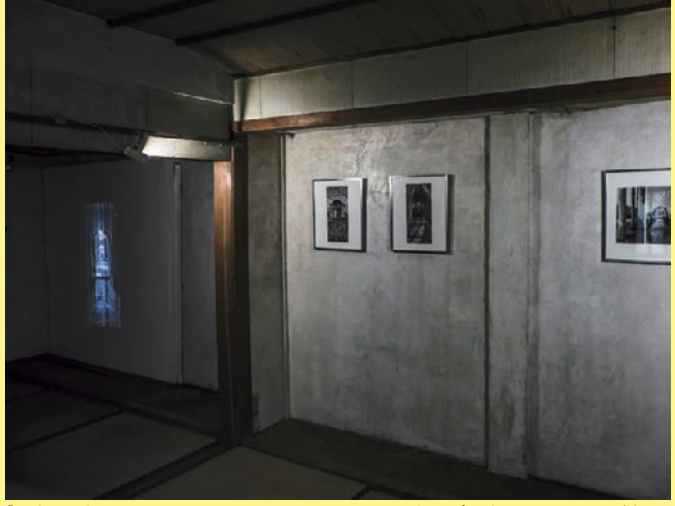
「知覚の風景 Landscape/ Various Dimensions」 ウィル・ホール @元ひご寿し



「Golden Atmosphere」 田中誠人 @旧医院



「はならあと桜井エリアと未来の場所づくり」 奈良女子大学インターン生 @元ひご寿し



「過去と現在の間 Between Past and Present」 サンディープ・ビスワス @元ひご寿し

〈連携展示〉

ここは
悠久の地、
吉野

その子らに、あんなにも切りに切りに、世界を知らず知らずのうちに、

薬の神を祀る祠を守りつつける三茶屋の記憶を辿り、殿川はかつての道のあとをた

戦後開拓地、殿川集落。かつて唯一行と新谷恭子の自宅兼スタジオとして使われていた家屋を引き継ぎ、水内義人による作業場&呑み屋「Mrs.triangle」新店舗とPIKA☆によるサウンドスペース「間光-mavie-」がオープン。

会場で配布された文化祭 MAP



jiwajiwana文化祭

「遊ぶ」「食べる」「楽しむ」
「くつろぐ」「感じる」 — 5つのテーマで開催 —

jiwajiwanaとみちくさマルシェ出展者が一緒に作り上げる2日間
薬草のお庭づくりやダーニング、椅子製作などのDIYワークショップ
天然酵母や有機野菜など、素材にこだわった食体験
吉野杉やjiwajiwanaのお庭の薬草を生かした薬草足湯 など

みちくさマルシェ出展者 ツクルテムムテ、つくばねっこ村、樺木、
大宇陀ちくちく所、tomato monkey、ラウアイ

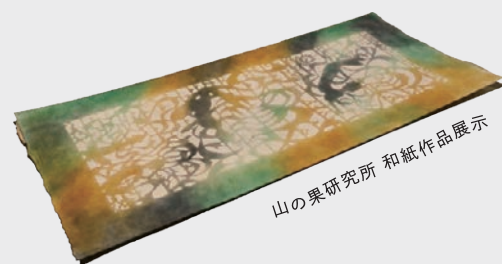
土地の記憶 -Memories of the land-

生駒敦、ユージン・ソレール

jiwajiwana、おうち (10:00-17:00)
入場500円、文化祭限定のお風呂のハーブのお土産付き
高校生以下・障がい者手帳をお持ちの方及び同伴の方1名無料

トノガワ re-カイトク

百々武、ハブヒロシ、PIKA☆、水内義人、吉村寿代(山の果研究所)
トノカツオフィス (10:00-16:00) 間光-mavie-&Mrs.triangle (10:00-21:30)
入場無料 (一部イベント有料)



山の果研究所 和紙作品展示



百々武 写真展「PORTRAIT OF TONOGAWA」

華道家・生駒敦によるインスタレーション



三茶屋会場のシンボル、ユージン・ソレール制作の新作茶室



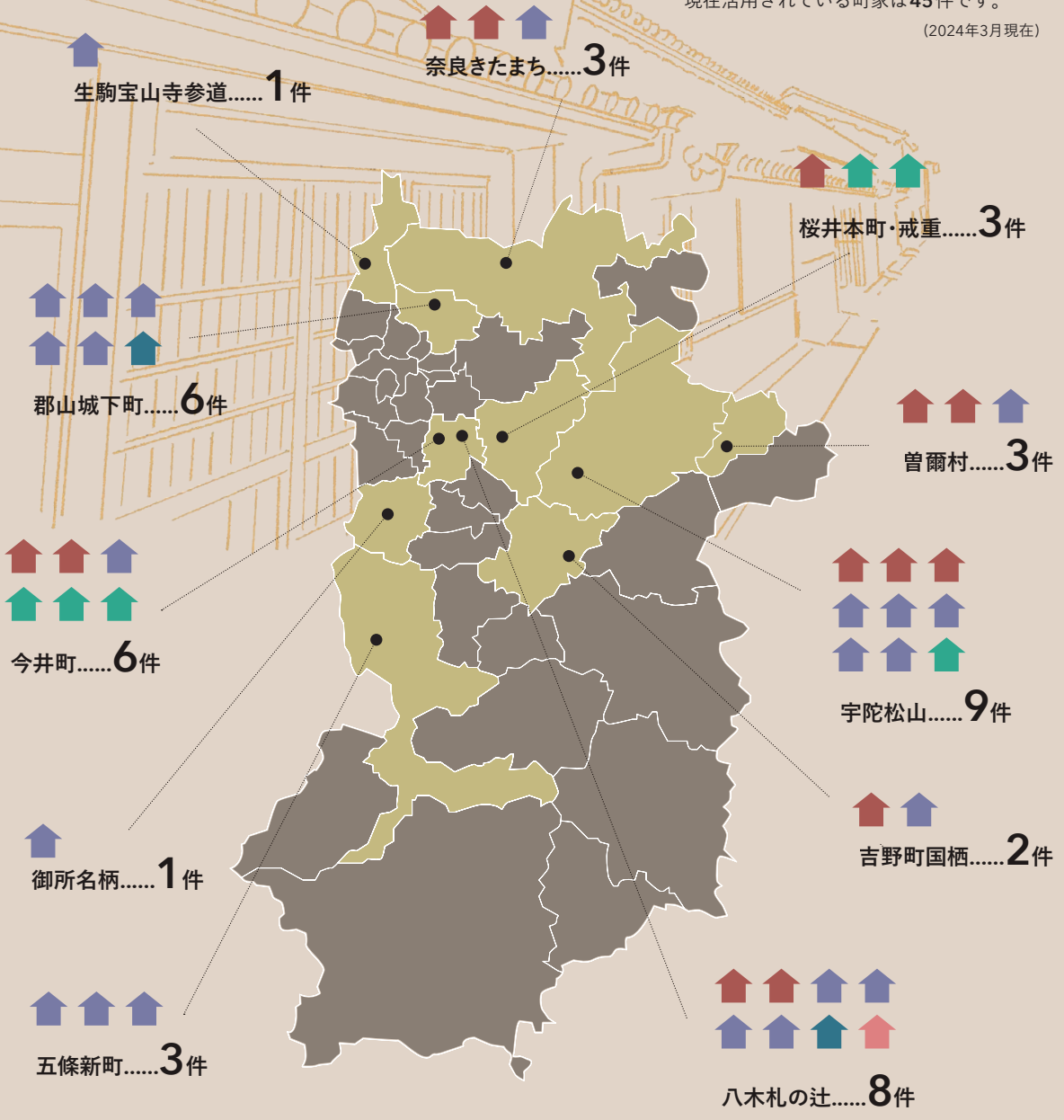
標高500m、殿川山中で夜更けまで続くライブや野外上映

空き町家 利活用事例

2011年からはなうあとがきっかけで活用された空き町家のうち、住宅や店舗として現在活用されている町家は45件です。

(2024年3月現在)

🏠 ... 住居 🏪 ... 店舗
🌿 ... コミュニティスペース 🏢 ... 公共施設 🏢 ... 事務所



過去に活用された実績のある町家

宇陀松山 [町家 工房 町家 事務所 商店 住宅] 郡山城下町 [町家 事務所 商店 ギャラリー]

五條新町 [町家 工房 町家 住宅] 三輪 [町家 ギャラリー]



来場者のことば

144名の方にアンケートにご協力いただきました

空き家を活用されていたり、コンポストを利用した植物、プランター等にとっても好感を抱きました。

宇陀山華小路で使われなくなった昔の農機具や日常に使われていた物とダリアの花の融合作品が良かったです。

チケットが土に還るなど、とても環境に配慮していると思います。

朝海陽子「bubble」。躍動感があるのに閉じてる感じが表されてる気がした。環境問題の根本は、人間自身が巻き起こしたものだ。

山本悠さんが手がけた小学生のポスターは、印刷物を大量生産して廃棄するのは真逆の発想でおもしろかったです。

はならあととは全体が低予算で運営されていて、撤去費や廃材処分費がかかってなく、内容もおもしろかった。

作家さん自身から作品の解説を得られるなど良い体験をさせていただきました。

「クローン文化財」というものを初めて知り、大変興味深く思いました。

開催されるまちの雰囲気も素敵で、アートを楽しむことができました。

宇陀の街並みが素敵。桜井のシヴァニさんの編み物が良かった。

今年は少しじんまりしてる気がしました

大好きな芸術祭です。以前のように、もう少し期間を長く平日開催もして欲しいです。

スタッフの方が多くて、芸術祭への熱意を感じました。

もう少し開催期間が長ければ吉野方面にも行けたかなと思います。

配置されている距離や作品の量のバランスも良く、作品も町家も同じ熱量で楽しめました。

はならあととは好きです。毎年楽しみにしています。

今のスタンス(町家、環境)で続けて下さい。

詳しい地図を出してほしいです。

私にとってとても理解がたくて、むづかしいなあと感じましたが、こんな企画があればまた来てみたいと思いました。

交通の不便さは特色でもある。

現代アートの自分なりの解釈ができるという魅力を存分に感じる事ができてとても良かった。

はならあと掲載メディア

新聞	朝日新聞	2023年7月27日	朝刊
	朝日新聞	2023年10月24日	朝刊
	毎日新聞	2023年10月25日	朝刊
	読売新聞	2023年10月27日	朝刊
	奈良新聞	2023年10月24日	朝刊
TV	NHK奈良放送「ならナビ」	2023年10月20日	
	KCN	YouTube	
	NHK奈良放送「逢香の華やく大和」	2023年11月14日	放送
	NHK奈良放送「ならナビ」	2023年11月14日	放送
ラジオ	FMハイパー 奈良県のコミュニティラジオ (FM814)「よろしゅうおあがり」	2023年10月18日	
	NHKラジオ 関西ラジオワイド	2023年10月20日	
広報紙	県民たより奈良	9月号	
	広報うだ	9月号	
ウェブメディア	美術手帖オンライン	2023年7月25日-	
	ソノコト	2023年8月3日-	
	BIGLOBE	2023年8月3日-	
	DAS デザイナーズ協会	2023年8月4日-	
	N.Park Project	2023年8月24日-	

ウェブメディア	花の大和	2023年9月19日-
	じゃらんnat 観光ガイド JR西日本「おでかけネット」	2023年10月03日-
	N.Park Project	2023年10月10日-
	嵯峨美術大学	2023年10月13日-
	peatix	2023年10月13日-
	KENCHIKU	2023年10月13日-
	展覧会・博物館・美術館・記念館	2023年10月13日-
	成安造形大学美術領域	2023年10月13日-
	Tokyo Art Beat	2023年10月13日-
	AmeeT	2023年11月7日-
	Artscape	2023年11月15日-
	デジタルサイネージ	2023年9月20日-10月30日
	エレベーターラッピング	2023年9月18日-10月30日
	JR西日本発行「電車&ウォーク」	2023年11月号
その他	イベント・ポスター展	奈良県立美術館 2023年8月1日-9月3日
	奈良町にぎわいの家(連携展示)	奈良県立図書館情報館 2023年8月22日-9月3日
	奈良県庁屋上ギャラリー	橿原市ミグランス屋上ギャラリー 2023年10月5日-10日

pre-event

はならあと meeting

2023年9月2日(土),3日(日) 奈良市内各所

今年初めての試みとして、イベント「はならあとmeeting」を開催しました。はならあとのことをより多くの方に知ってもらい、10月の芸術祭本番に足を運んでもらえるよう、3つのテーマを設けました。期間中は2000人を超えるお客様にご来場いただき、各会場が賑わいました。

1 「はならあと」を知る

「はならあと」のこれまでの歴史や、これからの取組みがわかる!

はならあとmeeting特別展

キュレータートーク

はならあとポスター展

インフォメーション

桜井エリア マルシェ

2 環境問題を考える

「はならあと」を通じて、持続可能な社会を考えるきっかけに!

はならあとマルシェ

はならあとmeeting シネマ

はならあとサステナブル講座

3 奈良の歴史的な町並みやアートに触れる

「スタンプラリー」に参加して、「はならあと」の魅力や奈良のアートシーンを体感!

各ギャラリー

奈良町にぎわいの家

奈良県立美術館



イベント会場

奈良町にぎわいの家、喜楽座、BONCHI、Dear Gallery NARA、奈良県立美術館1F ギャラリー

スタンプラリー協力会場

Gallery CLASS、Gallery OUT of PLACE、ギャラリー天平ならまち、ギャラリー勇齋、SPACE DEPARTMENT、藤間家住宅改修中、NORR coffee roasters、maru room (マルルーム)

キュレータートーク

スピーカー 長谷川新、内田千恵

はならあとmeeting特別展

協力作家 生駒敦、オマルトヴェンザー、坂野真子、水内義人、ユージン・ソレル、百々武、ウィル・ホール

サステナブル講座

講師 吉田朋紀(株式会社 花の大和)、まへだちさと(里山文庫)、水井康介(奈良県農民連)

企画協力 生活協同組合コープ自然派奈良

マルシェ出店者

麻矢asa-ya、EARTH COLOR、uramariko mehndiart、春日山原始林を未来へつなぐ会、市民生活協同組合ならコープ、すてない暮らしトットコ、生活協同組合コープ自然派奈良、豆coffee、田原ナチュラル・ファーム、たんぼの家アートセンター HANA、neniqri、布ナブ工房Rainbow*clover



はならあと 2023 出展作家

宇陀松山エリア	阿児つばさ、朝海陽子、クローン文化財（ミレー《種をまく人》）、丸木スマ、宮崎竜成、山本悠、ユアサエボシ
橿原・今井エリア	あきらも★ろっく。、樋田享子、櫻井恵子、坂野真子、芝谷桂、Crescent Moon Installation Unit（シュウ、島岡亮次）、藤田千代、仲川勝三、六車紀子
桜井戒重エリア	ウィル・ホール、岡本奈香子、栗原寿行、サンディーブ・ピスワス、シヴァニ・アガルヴァル、田中誠人
桜井本町通エリア	オマルトヴェンザー、山下智子
吉野町三茶屋エリア	生駒敦、ユージン・ソレル
吉野町殿川エリア	百々武、ハブヒロシ、PIKA☆、水内義人、吉村寿代（山の果研究所）

奈良・町家の芸術祭 HANARART 実行委員会

実行委員長	川端規央（三輪座 代表）
副実行委員長	小山豊（くらす* 理事長）
副実行委員長・会計	藤野正文（公益社団法人奈良まちづくりセンター 理事長）
監事	吉村耕治（殿川の活性化に取り組もう会）
委員	山本陽一（NPO法人大和社中 相談役） 齋藤聡（御所アートフェスタ実行委員会） 下田吉美（NPO法人八木まちづくりネットワーク 代表） 中西知（今井町並み保存会 会長） 田川新一朗（宇陀キラ倶楽部） 二十軒起夫（田原本・まちをすきになる会） 浦野聡（大和高田市本町・市町地区まちづくり協議会） 黒田篤史（柳生茶屋都市農村観光交流拠点実行委員会） たかはしなつき（アーティスト） 岡本奈香子（かいじゅう未来計画 ～アート・ひと・まち in 大和桜井～）
顧問	岸田宰（奈良県まちづくり連携推進課 課長） 長谷川充（橿原市魅力創造部観光政策課 課長） 後藤文彦（桜井市教育委員会 社会教育課 課長） 藤田茂樹（宇陀市政策推進部政策推進課 課長） 森脇登志男（吉野町協働のまち推進課 課長）

奈良・町家の芸術祭 HANARART 実行委員会 事務局

事務局長	飯村有加
事務局	内田千恵、大野雅彦、北村大宰
コーディネーター	たかはしなつき
サポーターリーダー	松坂明日加、山本瑞穂

サステナブルな取り組み

印刷物

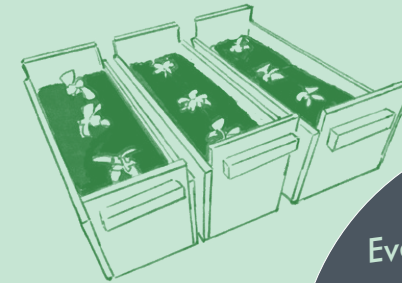
芸術祭で使用する印刷物には、地球環境に配慮された印刷用紙を使用し、ベジタブルオイルインキ（石油系の溶剤に比べて生分解性があり、VOCの排出もほとんどなく環境負荷低減に寄与）を使用しています。



「はならあとでは2020年より「地球に優しいエコロジカルな芸術祭」として様々な取り組みを行っています。」

コンポスト

2021年より「はならあとコンポストプロジェクト」を開始、実行委員会メンバーが各家庭の生ごみをコンポスト（堆肥化）しました。その土を北山村の杉材で手作りした鉢植えに入れ、お花を植えて各会場に配置しました。植え方は株式会社花の大和さんに教えていただき、お花もご協賛いただきました。



プラスチックフリー

ラミネーターの使用をやめ、プラスチックフリーに努めてきました。会場案内看板は全て木材を使用し、一部は古民家のお掃除から出た廃材を使用して作りました。会場設営に際しても、麻紐を使用するなど環境に優しい素材を心がけています。はならあとマルシェの参加ショップには、プラスチックの使用を控えていただきました。

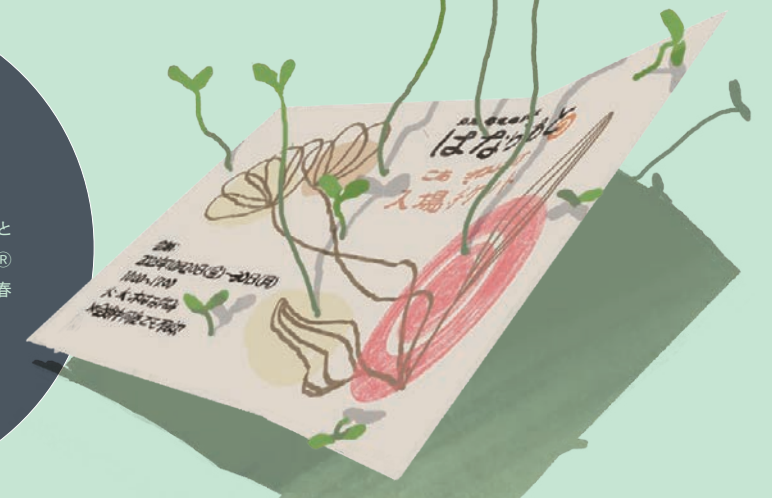


Event

環境に配慮したエコマルシェをイベント「はならあとmeeting」と「はならあとこあ」期間中に開催しました。「ゴミを出さない」を目標に、主に奈良県下で環境に配慮した生産者を紹介し、来場者や宇陀市の地元住民の皆さんと交流しました。

Seed Paper Ticket

こあエリアの入場チケットは、土に埋めると植物が芽吹く種の入ったシードペーパー®で制作しました。チケットはゴミにならず春にはお花が咲きます。



チケットデザイン: 奈良女子大学インターン生



宇陀松山について

宇陀松山城跡を擁する古城山(しろやま)の西麓から宇陀川の間に南北に細長く展開する歴史的町並みは、近世初頭の城下町から商家町に発展し、近郷の物資の集散地として昭和の半ばまで宇陀郡の中心地としてにぎわった。17ヘクタールの面積に約200棟の町家がひしめく町並みは、近く・遠くに見える山々と、宇陀川から引いた水路を流れるせせらぎの音が相まって心地よい景観を形成している。

宇陀松山エリアで同時開催の「宇陀松山華小路」制作=イケモトタツヤ×諸熊仁志/音楽協力=内藤翔/主催=宇陀キラ倶楽部/写真=諸熊仁志

協賛



ホテル尾花, (一社)今井町大和観光局, ヒューマンヘリテージ株式会社, 阿伽陀屋 若林亭, 裏道具店, お好み焼ときわ, おのうえカイロプラクティックハウス, 株式会社 鍛冶本塗装店, 株式会社 久保本家酒造, ゲストハウス 和櫻, 珈琲の富田屋, 自家焙煎珈琲えんれい~CAFE DE ENREI, 四季彩菜 菟風, ぜに宗 桜井店, 株式会社中尾組, 奈良一奈良漬 いせ弥, ヘアモードサロンミヤケ, やまとびと株式会社, 若林靴下仕上加工所, cafe equbo*, cafe Hackberry, THE KUWANA BAR, 茶房あゆみ, 松月堂, 農縁cafeピア, 株式会社 森野吉野葛本舗, 箭上文化財修復, 薬草茶が味わえる宿 奈の音, 料理旅館 今阪屋



主催 奈良・町家の芸術祭 HANARART 実行委員会 共催 奈良県
 後援 宇陀市、宇陀市教育委員会、橿原市、桜井市、吉野町、奈良新聞社、朝日新聞奈良総局、産経新聞社、毎日新聞奈良支局、読売新聞奈良支局、NHK奈良放送局、奈良テレビ放送、ならどっとFM、一般財団法人奈良県ビジターズビューロー
 協力 近鉄ケーブルネットワーク株式会社、生活協同組合コープ自然派奈良、奈良交通株式会社、奈良町にぎわいの家

奈良・町家の芸術祭はならあと 2023 図録

2024年3月発行

編集 飯村有加、内田千恵、大野雅彦、北村大宰、たかはしなつき
 デザイン・構成 山本悠、湯田冨
 撮影 朝海陽子 (pp.5,10-12[上],13[上],16)、サンディー・ビスワス (pp.27-29,30[上],31[左下、右])、長谷川朋也 (pp.03[L],22-25,31[左上])、前川俊介 (pp.32-36)、松本尚大 (pp.3[c],38)
 テキスト協力 田川陽子、長谷川新
 発行 奈良・町家の芸術祭 HANARART 実行委員会
 〒630-8114 奈良県奈良市芝辻町2丁目6-14 maru room内
 TEL: 090-9215-6847 Mail: info@hanarart.jp
 印刷 岡村印刷工業株式会社



